

修士論文（要旨）

2011年7月

中国人日本語学習者の対日イメージ  
—SDプロフィール分析とインタビュー調査に基づいて—

指導 佐々木倫子教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

209J3904

横田葉子

## 目次

はじめに	1
一 研究背景と動機	
第1章 対日イメージの構造	5
1-1 先行研究	5
1-1-1 対日イメージ研究とSDプロファイル	5
1-1-2 対日イメージと日本語能力	6
1-1-3 対日イメージと形成要因	6
1-2 研究の枠組みと概要	7
1-3 研究課題	12
第2章 SDプロファイル分析	13
2-1 分析方法	13
2-2 調査協力者	15
2-3 分析結果	17
第3章 考察	32
3-1 共通イメージ	32
3-2 多様性を持つイメージ	34
3-3 学習目的と対日イメージ	38
3-4 背景文化と対日イメージ	41
第4章 インタビュー調査	42
4-1 調査概要	42
4-2 南京出身RMの事例	44
4-3 無錫出身EFの事例	56
4-4 香港出身TMの事例	64
第5章 総合的考察	72
おわりに	79
一 今後の課題	

## 要旨

キーワード：勤勉性 平等性 異文化適応 歴史的社会的要因 個人的要因

### 第1章

中国人学習者の数は、留学生の中で第1位を占めている。稿者の勤務する東京都内の日本語学校においても、95%以上は中国籍の学生である。ここ数年、中国からの留学生のニーズ・目的が多様化してきた。彼らの受験指導をするのが日本語教師の重要な仕事のひとつであるが、多様化した目的を持つ彼らに向き合っている日々の中で、彼らがいいたい日本に何を求めているのか、日本にどのようなイメージを持っているのかということを追究したいと感じるようになった。留学生数として最も多い中国人学生の対日イメージを知り、日本社会における異文化適応の過程を知ることは、学生の指導を行う際の重要な示唆となるであろう。

本研究は、2010年から2011年にかけて、中国人の対日イメージ・対日感情を、SD (Semantic Differential) プロファイル分析・因子分析とライフストーリーインタビューに基づいて分析したものである。SDプロファイル分析の調査対象者は属性の異なる5つの「中国人日本語学習者」集団(G1-G5)である。さらに、彼らと比較する集団として、日本語を学ぶ短期留学生の韓国人グループ(G6)にも同様の調査を行った。ライフストーリーインタビューは、3名の留学生に行った。

### 第2章・第3章

SDプロファイル分析においては、各集団間の対日イメージの異同を読み取るために4つの研究課題を設け、課題に答えることを目的とした。調査は、調査期間が限定されているため、横断的研究となった。

SDプロファイル分析では、日本語学習者集団が、先行研究の一般大学生に比べて、全体的に、より好意的な対日イメージを持っていることがわかった。因子分析では、G1-G4から「目的集団・勤勉性」「感性・誠実性」「知的・創造性」「開放性・社交性」「平等性」「流行性」の6因子を抽出した。「目的集団・勤勉性」では、どの集団も肯定的イメージとして捉え、評価も集中している。来日後、時間の経過と共に、「開放性・社交性」「平等性」についてはU字型パターンが見られたが、縦断的研究ではないため明確に検証されたとは言い難い。「開放性・社交性」「平等性」2因子は相関関係を持ち、影響を与え合うことが読み取れた。「開放性・社交性」「平等性」2因子に関わるイメージの多様性については、個人の異文化適応がどのような過程で展開していったかが大きく関わっていると考えられるが、統計的手法では、その内容を知ることはできない。

### 第4章

ライフストーリーインタビューは、統計的手法では読み取ることのできない異文化適応

の過程における現象の解釈を目的とした。イメージの形成要因である（１）「歴史的社会的要因」（２）「個人的要因」に着目した。

インタビュー協力者３名は、出身地も来日した背景も異なる。（１）と（２）は独立した要素ではなく、関連性を持つ。（１）と（２）の視点から、異文化適応の過程における個人の具体的な心の動きを読み取ることができた。

パーソナルな人間関係においても、中国人対日本人として自らのアイデンティティを意識する場面も見受けられた。条件さえ整えば、国境を越え「個」として動き回れる時代とはいえ、インタビューからは、個人が自分の属する国と帰属意識からは、自由になれないことが感じられる。また、個人的要因としては、個人の意識と、周囲の環境（他者も含める）要素が、適応を容易にさせるか否かのポイントであることが読み取れた。

## 第５章

日本語学習者が日本をどう見ているかを知ることが、日本に対する期待感を知ることにつながる。本研究で明らかになった、彼らの異文化適応の過程における精神的葛藤と成長、さらに、対日イメージの変容、形成の様相は、日本語教師として、学習者に対して思い込みや偏見を持っていなかったかという点について反省する材料を与えてくれた。若い世代の中国人の日本語学習者の成長の過程に、日本語教師としてどのような支援ができるかを、今後考えてみたい。

## 参考文献

- 石井健一（2006）「2005年反日デモと対日意識・愛国心」『日中社会学会ワーキングペーパー集』筑波大学
- 岩男寿美子・萩原滋（1991）『日本で学ぶ留学生』勁草書房
- ウヴェ・フリック（2002）『質的研究入門』春秋社
- 遠藤由美（2009）『社会心理学』ミネルヴァ書房
- 大坊郁夫（1992）『社会心理学パースペクティブ』誠信書房
- 鎌田修（2008）『プロフィシエンシーを育てる』凡人社
- 亀田達也（2009）『社会心理学』有斐閣
- 工藤泰志（2008）『中国人の日本観 日本人の中国観』言論NPO
- 桜井厚（2002）『インタビューの社会学』せりか書房
- 桜井厚（2005）『ライフストーリーインタビュー 質的研究入門』せりか書房
- 佐々木倫子（2007）『変貌する言語教育』くろしお出版
- 高橋順一（1992）『異文化へのストラテジー』川島書店
- 手塚千鶴子（1992）「留学生の異文化適応ストラテジー」高橋順一編『異文化適応へのストラテジー』川島書房
- 鳥飼玖美子（2008）「第2言語で話すということ」鎌田修『プロフィシエンシーを育てる』凡人社
- ネウストプニー, J.V.（1982）『外国人とのコミュニケーション』岩波新書
- ネウストプニー, J.V.（2002）『言語研究の方法』くろしお出版
- 御堂岡潔（1992）「文化集団のイメージ」大坊郁夫編『社会心理学パースペクティブ』誠信書房
- 三代純平（2009）「留学生を支えるための日本語教育とその研究課題」『言語文化教育研究』7&8
- メリアム, S.B.（2004）『質的調査法入門』ミネルヴァ書房
- メリアム, S.B.（2010）『調査研究法ガイドブック』ミネルヴァ書房
- 山崎瑞紀(1997)「アジア系留学生の対日態度及び対異文化態度形成におけるエスニシティの役割」『Japanese Journal of Educational Psychology』Vol. 45
- 山崎瑞紀（1993）「アジア系留学生の対日態度の形成要因に関する研究」『The Japanese Journal of Psychology』 Vol.64
- やまだようこ（2000）「人生を物語ることの意味」『教育心理学年報』39
- 李洋陽（2007）「中国人の日本人イメージとその形成要因」『東京大学大学院情報学環紀要』2007
- 李洋陽（2005）「中国人留学生の日本人イメージとその形成過程」『東京大学社会情報研究所紀要』2005
- 渡辺文夫（1992）「文化の理解」大坊郁夫編『心理学的パースペクティブ』誠信書房